

エクスポージャーの実際と理論

変わらない実践と変わる理論的背景
日本行動療法学会第34回大会
自主シンポジウム8 2008/11/3

演者

- 原井宏明 なごやメンタルクリニック 国立菊池病院
 - 歴史と理論
- 岡嶋美代 なごやメンタルクリニック 国立菊池病院
 - ビデオ提示
- 中島定彦 関西学院大学
 - 先行刺激の随伴性操作
- 奥田健次 桜花学園大学
 - 結果の随伴性操作

エクスポージャーの歴史と理論への期待

原井宏明

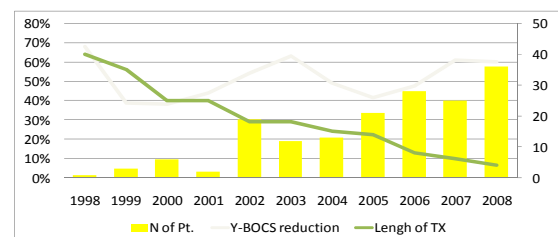
行動療法とは

1. 現時点でベストの理論と原則を用いる
 - どこからやってこようとこだわらない
2. 実証的・実験的証拠に基づくことのみ主張する
Borkovec T 2007

不安障害に対する理論モデル

	PD	GAD	SAD	OCD
認知モデル	身体感覚に対する破滅的解釈モデル (Clark DM)	メタ認知 (Wells A.) 4部分モデル (Ladouceur R.) (不確実性に対する低い耐性、心配に関する信念、問題設定の下手さ、認知的回避)	Clark DA, Wells A. の認知モデル 1) 自己中心的注意, 2) 解釈の偏り, 3) 記憶と再生の偏り, 4) 安全確保行動	責任に関する不合理な信念モデル (Salkovskis PM) 災難予防能力に関する不合理な信念モデル (McFall ME) Thought-action fusion (Shafran R)
学習理論	条件づけ (Mowrer の二過程説, Rescorla-Wagner モデル, コンテキスト条件づけ), 刺激等価性, ルール支配行動, 阻止の条件づけ	回避理論 (Borkovec T.)	Leary MR の自己提示理論	道徳行動、スケジュール誘発性付随行動
	内部感覚条件づけ, 情動条件づけ, 情動回避・経験回避			

OCD治療



1800年代	1920年代	1950年代	1980年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代
1895 不安神経症 Freud S.	1920 ロゴセラピー(注 釈指向、反省的 去) Frankle V.	1958 系統的脱感作 Wolpe J.	1962 論理情動行動 療法 Ellis A.	1971 ストレス免疫新 録 Michenbaum D.	1982 マインドフルネ ス ストレス低減 法 Kabat-Zinn J.	1991 メタ認知療法 Wells A.	
	1926 神経衰弱及び 強迫観念の療 治法 森田正馬	1959 行動療法 Eysenck H.J.	1963 認知療法 Beck AT	1971 問題解決訓練 O'Zurilla, Goldfried	1983 動機づけ面接 Miller MR.	1991 機能分析心理 療法 Kohlenberg, R. J. & Tsai, M. 1993	
	1930 行動主義 Watson JB	1956 慢性精神病的 障害に対する 応用行動分析 Skinner BF		1971 不安管理訓練 Sinn, Richardson		1999 弁証法的行動 療法 Linehan MM	
				1971 内潜条件づけ Cautela JR			
				1977 認知行動療法 Michenbaum D.			
				1976 多様式行動療 法 Lazarus A.			

第1世代の行
動療法

第2世代

第3世代

歴史

- 1959年 Eysenck HJ
 - 拮抗条件づけ 消去 反応制止 逆制止
 - 系統的脱感作
 - Mowrer二過程説 Opponent Process理論
- エクスポートジャー
 - Dismantling Study
- 1990年から

まだ臨床に生かされていない理論

- コンテキスト条件づけ
- パラレル条件づけ
- 刺激等価性
- 行動経済学
- スケジュール誘発性行動
- 価値条件づけ

次世代エクスポートジャーでは

- USを使ったエクスポートジャーの手続き
 - CSを細かく把握することは不要で、USを提示するのみ
 - URとしてのCore affectを起こす
- 効果
 - 価値条件づけにおけるUR価値の変容
- 効用
 - 高次条件づけのCRは無視できる
 - 新たなCSへの感作が起こらない
 - 効率的になCRの減弱、消去ができる。
 - スケジュール操作とCRの消去が起こるまでの間にSign-Trackingを誘発することで、CS接近行動をAutoshaping

エクスポートジャーの謎

- “消去”という用語の一般的用法
 - 《手続き》 クリニックで吐き気(内部感覚)に対す
るエクスポートジャーを行った
 - 《効果》 日常生活で食事を取るときの不安が消
去された
 - 《理論》 クリニックでのエクスポートジャーによって、
日常生活での食事(CS)に対する不安反応(CR)が
消去されたと言える

今の“消去”の考察

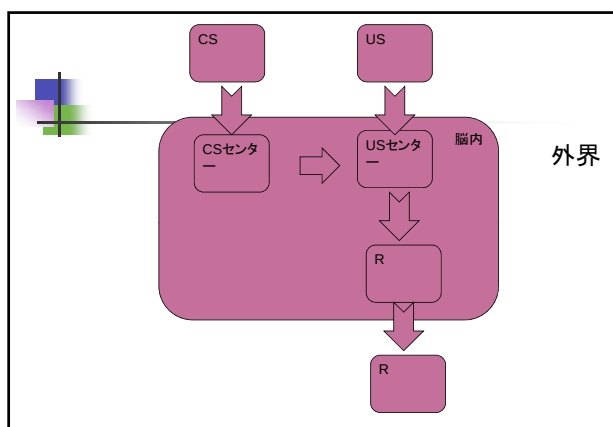
- 一度も、無強化でCSのみ提示する試行を行って
いない
 - CSに対する消去の手続きを行っていない
 - 効果について、従来のレスポネント条件づけで見られ
る現象が起こらない (自発的回復など)
- なぜ
 - 手続きと効果、理論の混同

US価値変化法 US devaluation

- USの提示のみによって, CSの機能が変わる
- レスポンデント条件づけによる学習
 - × S-R連合 ○ S-S連合
- 治療的エクスポージャーの役割は

ディスカッション

- 状況エクスポージャー
- 内部感覚エクスポージャー



	出現	消失
好子	好子出現による強化	好子消失による弱化
嫌子		

阻止の随伴性

	出現の阻止	消失の阻止
好子	好子出現阻止の弱化	好子消失阻止の強化
嫌子	嫌子出現阻止の強化	好子消失阻止の弱化

- 随伴性空間における行動の選択
- 随伴性空間は？
 - 数学的モデルは
- 確立操作は？

- 直前
- 本能的逸脱
- SSDR
- 馴化とは？

- 
-
- 関係性理論
 - 機能的等価性

- 
-
- やがて起こるかも知れないと考えること
 - 言語行動
 - この言語行動はRFTから、広範囲に広がる
 - 嫌悪的言語行動が引き起こす情緒状態
 - 嫌子や好子の価値変容の操作
 - 実験的統制によって